

**長年のCSR活動の継続が国を超えた交流を実現**

**オルビス、環境保全活動で支援しているフィジー共和国の子供たちと交流  
～2002年から14年間に渡りマングローブの森作りや環境教育をサポート～**

ポーラ・オルビスグループのオルビス株式会社(本社:東京都品川区、社長:阿部嘉文)は、11月22日(火)フィジー共和国の子供たち及び関係者の表敬訪問を受けました。

オルビスは、主力販売チャネルである通信販売が、カタログの発行等で多くの紙を消費することから「少しでも還元できれば」と、公益財団法人オイスカと協働で国内外の植林を中心とした環境保全活動を展開しています。海外では「子供の森」計画<sup>※1</sup>を通じたグローバルな支援とともに、特定支援国として環境問題で課題を抱えるフィジー共和国を選定<sup>※2</sup>、2002年と2008年の2度にわたり実際に従業員が同国に渡航し、子供たちや地元関係者との交流、海岸沿いにあるコロゴ村周辺でのマングローブ植林などを行っています。

オルビスは今後もこのような活動・支援を通じて、地球環境保護に貢献していきます。



子どもたちと社長でプレゼントを交換



参加者全員で記念の集合写真

今回、来日したフィジー共和国関係者は生徒2名(男女1名ずつ・共に12歳)、オイスカ現地コーディネーター1名の計3名で、オイスカ中部日本研修センターの同国研修生が通訳をつとめました。

当日は社長の阿部、取締役ほか多数の社員が参加のうえ下記の内容で歓迎イベントを実施し、交流を図るとともに親交を深めました。

- \* オルビス社長の阿部による歓迎の挨拶、環境チームメンバーから会社概要、国内外での環境保全活動への取組みを説明
- \* 2002年、2008年にオルビス社員が同国に渡航した様子のビデオ映像を放映  
(子供たちとの交流や植林活動を行った様子を紹介)
- \* フィジー共和国の子どもたちやオイスカ関係者から、現在の「子供の森」計画の進捗状況の説明  
(植林したマングローブ等が関係者の努力により育成が順調に進んでいる様子を紹介)
- \* 子どもたちから同国伝統の踊り「メケ」披露
- \* オルビスの本社ビル3階にあるコールセンター見学(通信販売の仕組みについて学習)

**※1 オイスカ「子供の森」計画について**

子供たち自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を育てることで「自然を愛する心」「緑を大切に  
する気持ち」を養いながら地球の緑化を進めていくプログラムです。

木を植えた面積や本数、生長だけに活動の価値を置くのではなく、子どもたちが自分たちの  
活動の目的を理解し、主体的な行動に結び付けられるよう環境教育にも力を入れています。



**※2 フィジー共和国を取り巻く環境面の過酷な現状**

- 山の木が伐採されることで山の保水機能が失われ、各地で洪水を引き起こしています。
- 地球温暖化の影響による海面の上昇も、海岸・川岸の住民にとって脅威となっています。
- ゴミ処理問題も深刻化していますが、その大半はリゾートホテルから排出されています。

